



医療法人社団嬉泉会 嬉泉病院

病院長 上畑 昭美

1. 病院紹介

当院は都内にまだ透析病床が50床程度しかない1973年に透析専門病院として開院し、以来腎不全患者の診療を中心に地域に密着した医療サービスを提供してきました。現在、附属クリニックと合わせ94床の透析センター、26床の急性期病棟、34床の療養病棟を有し、透析患者数は320名です。埼玉県春日部市と千葉県船橋市に関連病院があり、法人では800名を超える透析患者の診療を行っています。

2. 腎臓リハビリテーション

各透析室に理学療法士を配置し、医師、透析スタッフ及び専属の管理栄養士・薬剤師とチームを組み、個々のライフステージに合わせた包括的リハビリを実践しています。運動療法は原則透析前・非透析日を推奨しており、ストレッチ、空圧トレーニングマシンによる筋力強化運動、有酸素運動を基本とし、個々が抱える骨関節疾患やADL低下にも適宜対応しています。自己通院が困難な患者は当院の送迎車の利用が可能です。本人や家族の負担が軽減され、リハビリの高い継続率につながっています。また、就労など時間的制約や継続性を考慮するケースでは透析中にも実施しており、有酸素運動の他、負荷調整が可能なチューブによる筋力強化運動を実施し、健康寿命の延長に努めています。

3. リスク管理

運動療法開始時には循環器専門医による評価が実施され、全例に運動負荷試験を実施し、効果的かつ安全な運動処方なされています。また、ADL低下によりエルゴメーター乗車が困難な場合は、仰臥位用エルゴメーターによる負荷心電図検査により安全管理に努め、虚血性心疾患の早期診断にもつながっています。



医療法人社団嬉泉会 嬉泉病院
〒125-0041 東京都葛飾区東金町 1-35-8
URL: <http://www.kisen.or.jp/>

4. 在宅復帰支援・地域連携

高齢透析患者を取り巻く介護・福祉環境は厳しく、通所リハ・介護、入所施設など、受入れ可能な施設が少ない現状があります。そこで当院では、入院リハビリ中の透析患者の在宅復帰支援に力を入れています。透析患者の高齢化に伴い透析チームに医療ソーシャルワーカーが加わり、ケアマネジャーとの連携、通所・入所施設からの研修受け入れ、家族、訪問ヘルパーや施設職員を対象とした毎月の調理実習と日常的な栄養・服薬指導を積極的に実施し、現状の打開を図っています。さらに、近隣のクリニックから通院困難となった患者を受け入れ、一定期間透析及びリハビリを実施することで地域クリニックへの復帰を支援する取り組みも実施しています。透析専門病院として、透析患者にとって住みよい社会作り、地域包括ケアを推進し、心身と生活を支える一貫したリハビリテーションに取り組んでいます。

